

さぬき野

かがやくけん、かがわけん。

香川県

2026 No.92

春



かみよあめ
味も姿も清らかな「加美代餠」。小づちで割って幸せのお裾分けができるお土産として人気。

門前町を、遊ぶ。

春のこんぴらさんへ。

特集 美しい珍名物、鯛の浜焼き。

東京2025デフリンピック
パドミントン混合団体金メダリスト
香川県知事
知事対談 片山 結愛 × 池田 豊人

ヒト×モノ 讃岐デザイン
会話が生まれるデザイン。

香川に住んで

はじめたこと



森さんが第一回アガサ・クリスティー賞を受賞し、作家デビューしたのは2011年。その半年後に埼玉県から香川県高松市に移り住んだ。引越越しを決めたのは、森さんの妻。夫婦に3人目の子どもが生まれ、マンションが手狭になったため「小説家はパソコンひとつあればどこでもできる仕事」と、インターネットで全国各地の物件を検索し、高松市の住宅を見つけたのだ。移住してすぐに家族が変わった。内気だった子どもたちは学校の仲間となじんで、単刀直入で面白い性質を存分に発揮。地域のスポーツ少年団で剣道を習い始めると心身がたくましくなった。妻は、都市機能がミニマムに集約されて暮らしやすいと喜んだ。家族から肩の力が抜けて大らかに「住む場所の気風はこんなに人に影響するんだ」と驚いたという。



土地の持つ気風は、家族を変える。

ミステリー小説家 森晶麿さん

香川の第一印象は「うどんがうまい」。今では県外出張後に必ず釜揚げうどんを食べる。「湯気の奥の真っ白な麺をすくい、ネギとショウガで清めただしに浸して体に入れる。これはみそぎの儀式です」と、表現者ならではの視点。



高松市街地のセレクト書店「本屋ルヌガンガ」で。店主夫妻と交流があり、昨年はこちらで「壁をはしごに変える」をテーマにトークイベントを行った。

高松での14年が過ぎ、中堅小説も小説の届け方も創造する森さんを、香川の文化や風土が、日々そっと応援している。



ミステリー小説家 森晶麿さん

静岡県生まれ。大学でフランス文学、大学院で美学・美術学を学ぶ。「黒猫の遊歩あるいは美学講義」でデビュー。斬新で、時に芸術的なトリックの多彩さが人気。昨年「あの日、タワマンで君と」がテレビ番組やSNSで話題に。



家族は、人間5人と猫2匹。一日の多くの時間を執筆に費やす一方、森さんが数学、妻が英語を近所の子どもにも教えている。「ミステリーは証明」なので数学は得意。突撃インタビューを敢行し、帰省後は琴平のお茶菓子を高松で広めるために大きな茶会を設けるなど、開かないはずのトビラを開けるための発想が、ぶっ飛んでると、強くリスベクト。

昨年12月発行の「消失村の殺戮理論」は、注目された「切断島の殺戮理論」の続編。



散歩好き。市街地に出ることは少ないが、日常的に川辺や田んぼの周辺を歩き、サギやキジ、カメなどを観察。

小説家となった森さん。大手出版社から50冊超のミステリー小説を発表しつつ、昨年、プロ小説家が対面で読者に著作を販売するフリーマーケット「ねじの市」を立ち上げた。小説の新たな流通を生み出すことの使命と面白みを感じている。挑戦的な活動を始めるにあたり、心の師匠にしたのが、昭和期に商業デザイナーや画家、作家として活躍した香川県出身のマルチプレイヤー、和田邦坊だ。

香川県情報誌 さぬき野 2026 春 No.92

香川県に関する問い合わせ
香川県広聴広報課 〒760-8570 香川県高松市番町4-1-10 TEL087-832-3078
香川県のホームページ <https://www.pref.kagawa.lg.jp/>
さぬき野のページ <https://www.pref.kagawa.lg.jp/kocho/kocho/sanukino.html>
香川県東京事務所 〒1102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3都道府県会館9階 TEL03-5212-9100
香川県大阪事務所 〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋1-18-24クロスシティ心斎橋4階 TEL06-6281-1661

多言語電子書籍でもご覧いただけます。無料アプリ「カタログポケット」をインストールして「さぬき野」で検索してください。



かがやくけん、かがわけん。 香川県



にぎやかな金刀比羅宮の表参道から少し離れた場所に、地元で愛される新町商店街がある。アーケードに漂う昭和のムード、歌舞伎絵の看板などが愛好家に知られるものの、穏やかな町の時間が流れ、旅人の姿は多くなかった。

一昨年、そこにウィンドーいっぱいの笑顔の鬼が現れ人々を驚かせた。この鬼は複合施設「KOTO VEGAS」のモニュメントである。

この施設は「地域まるごとホテル」がコンセプト。空き店舗や空き家を改修したゲストハウスとショップで構成され、それらを起点に、琴平の町で暮らすような特別な宿泊体験を作り出す。

スタイリッシュな「KOTO VEGAS」の出現で、重厚な店構えの老舗商店や、地元オーナーのこだわりが詰まった個人店の持ち味がより際立ち、商店街全体が格段に面白みを増した。若い旅行者が歩く姿も見かけられる。

このような現象は他の場所でも起こっている。表参道はもちろん、JR琴平駅と琴電琴平駅の周辺、駅と参道の間を流れる金倉川沿いにも新しい店や宿ができ、新旧の施設が入り組んで、町に奥行きが生まれたのだ。さらに、近年は地元の事業者や担い手たちが連携し、食や文化、アート、滞在体験などさまざまな切り口から町の魅力を再発見する取り組みが続いている。金刀比羅宮という大きな存在に寄り添いながら、それだけに頼らない、新たな観光の形を育てているのだ。

この春、琴平を訪ねるなら、駅から急いで参道を目指すのは粋じゃない。くつろげるカフェやレストラン、センスのいい雑貨や日用品店、工芸やアートのあがる場所へと。寄り道を繰り返すのが、町を遊ぶ極意だ。

KOTOVEGAS ワクワクのある4 SHOP



琴平文具店

日常にときめきをもたらす文具がそろそろ。香川の方言や景色を表したマスクングテープなど、ローカル色あふれるものはお土産に人気。



ザ ティールーム コトヒラ The TeaRoom KOTOHIRA

四国4県の茶葉を使ったお茶と、それに合うフードを提供。香川のお茶は三豊市高瀬町で栽培された茶葉を発酵させた和紅茶などが登場。



ベーグル ハウス コトヒラ Bagel House KOTOHIRA

ビーガン、ベジタリアン対応の13~14種のベーグルが並ぶ。低温発酵した生地はモチモチ食感。地元産の野菜や果物を使った月替わりも。



どんぞう 呑象ブリューイング

店内で醸造する4種のオリジナルクラフトビールと、四国内のブルワリーから取り寄せた2種を、軽食やおつまみと共に味わえる。



町笑う、ことひら歩き。

江戸時代には、一生に一度はこんびら参りと言われ、庶民の憧れだった金刀比羅宮。その門前町も、その頃からずっと日本中の人々に親しまれてきた。近年、歴史と伝統が残るその街並みに、現代風のしゃれた施設が加わり、これまでと違う表情を見せている。この春、暖かな風を感じながら新しい琴平を歩こう。



ベーグル
ベーグルハウス コトヒラ
Bagel House KOTOHIRA 【新町商店街】15

四国の特産品や地元農家の野菜を使ったベーグルは、常時13種類以上もあり、ヴィーガン、ベジタリアン対応。海外からの観光客や地元の人たちにも人気。



幸せの黄色いプリンなど
こんびらプリン【表参道】9

香川県産の卵を使い、懐かしい固めから、とろける食感まで6種類以上のバリエーションがある。幸せの黄色いプリンも瀬戸内レモンが香るジュレが美しい。



石松まんじゅう
紀の國屋【石段52段目】4

香川県を代表する甘味「和三盆」と香川県産の新鮮な卵をたっぷり使って焼き上げたこしあん入りの「石松まんじゅう」。運が良ければ週末に実演も見物できる。



ぼんやり子だぬき
ご利益や【石段192段目】2

讃岐はタヌキゆかりの地。ご当地には、タヌキが登場する昔話が数多くある。旅姿の「ぼんやり子だぬき」に癒やされる。店頭のカプセルトイも人気。



オリジナルモデルの下駄
池商店【石段69段目】3

こんびら歌舞伎大芝居の幟と同じ生地と模様が、切り取り方で琴平オリジナル柄の鼻緒に。丈夫で履き心地が良く、手放せない一足になる。

瀬戸内ソーダとシューパリジャン&カヌレ

アカボシ珈琲店【表参道】5

石段の起点近くにあるアカボシ珈琲店にはテラス席があり、犬の同伴可能。ドリンクとおしゃれなスイーツ、シューパリジャンやカヌレも味わえる。



気になる春のことひら



アイシングクッキー
金陵の郷【表参道】10

手作りのアイシングクッキーは現地のみの限定販売。大クスがそびえる中庭は、ベットと一緒にくつろげる。



オリジナルノート「kotonote」
琴平文具店【新町商店街】11

表紙、中紙、パーツと数万通りの組み合わせから生まれる世界でただ一つのオリジナルノート。旅の思い出をつづる楽しみもある。香川ならではの文具も見逃さない。



讃岐のり染めバッグ
ゲンのみせ【表参道】7

色鮮やかで大胆なデザインの香川県の伝統工芸品「讃岐のり染め」がひととき目を引くバッグ。



門前町の楽しみの一つは、ずらっと並んだ店を思いのままにのぞいてみることに。今回は、新町商店街と金刀比羅宮の大門に続く表参道を訪ね、春らしい品々をご紹介します。



フルーツ甘酒
金陵の郷【表参道】10

こんびらさんの御神酒を造る酒造会社の甘酒を使った新感覚ドリンク(アルコール1%未満)。



丸亀おいり
中田屋方昭商店【石段192段目】1

江戸時代、参拝客の港であった丸亀の名物「おいり」。今ではソフトクリームのトッピングとしても大人気。数々の店先をそれぞれのおいりが彩る。



御朱印帳
岩座【表参道】6

和雑貨を扱うお店で見つけた美しい「御朱印帳」。金刀比羅宮から御朱印を始めるのもおすすめ。

こんびらどら焼き
ことひらテラス【表参道】8

おいりソフト発祥の店で見つけた新スタイルのどら焼き。あんことカカオがコラボした春の一番人気とか。季節限定のイチゴなどのフルーツと生チョコバージョンがある。



春風に拍子木の音が...

四国こんぴら歌舞伎大芝居



春の琴平と言えば、話題に上るのが江戸時代そのままに芝居小屋で幕が開く「四国こんぴら歌舞伎大芝居」。今年は4月10日から26日の千穂楽まで、16日の休演日を挟み、17日間にわたって開催される。第一部は昨年の大河ドラマでも取り上げられた絵師を描いた演目と狂言の「花子」をもとにした舞踊劇「身替座禅」。午後からの第二部は、大化の改新を素材にしたという壮大な歴史ドラマと、映画でも話題になった「鷲娘」。幻想的な美しさの中、最後はすさまじい踊りで幕が下りる。余韻まで深い春の大芝居だ。

舞台となる国の重要文化財・旧金毘羅大芝居(金丸座)周辺は、開催前から華やかなムードに包まれる。表参道に鮮やかなのぼりが並び、4月9日には人気役者が顔を見せる「お練り」が行われ、町は風情ある熱気を帯びてゆく。



こんぴら歌舞伎オフィシャルサイト
<https://www.konpirakabuki.jp/history/daikanban.html>



金丸座の出店でも販売され、その後も人気を博すオリジナルフレームの「四国こんぴら歌舞伎大芝居記念切手」。写真は昨年の「第38回 四国こんぴら歌舞伎大芝居記念切手」。

【お問い合わせ先】
 日本郵便株式会社 四国支社
 郵便・物流営業部(物販・郵便商品担当)
 TEL 089-936-5257(直通)



歌舞伎の公演がないときも、歌舞伎気分が味わえる仕掛けが「こんぴら歌舞伎絵看板」。映画のポスターのように、見どころが描かれた人目を引く絵看板は、金丸座に掲げられているのはもちろん、琴平町歴史民俗資料館には名作の肉筆が、町内の店舗や新町商店街にはレプリカなどが展示されている。絵看板が多い新町商店街は「歌舞伎新町」の愛称がついた。

キャビン Cabin

創造を体験するホステル

廃墟だったビルを、ヴィンテージ感を生かしつつ、4階はホステル、2、3階をアトリエやイベント会場になるスペース、1階をカフェとして改修。ビル全体で、香川の伝統工芸、地元作家の写真や絵画に触れられ、チームでの創作合宿にも利用できる。古今のアートと共に、豊かな旅時間を創造しよう。

香川県仲多度郡琴平町725-1

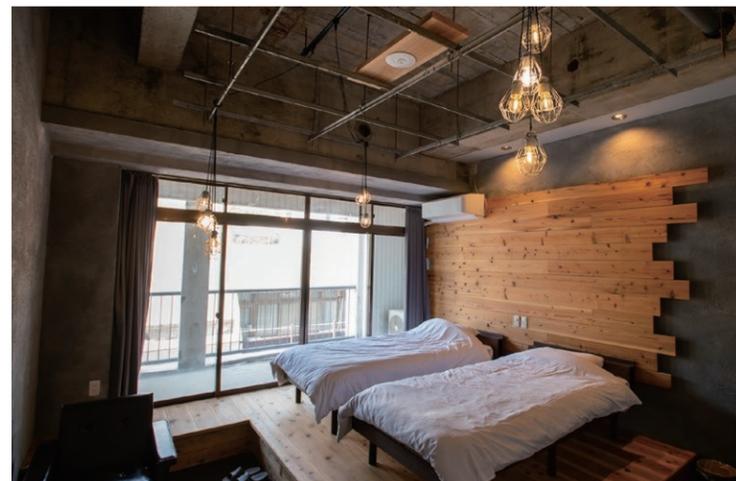


ゴカン コトヒラ GOKAN KOTOHIRA

町の日常を感じる滞在

「地域まるごとホテル」を掲げる新町商店街「KOTOVEGAS」の、一棟貸しのゲストハウス。東洋思想の陰陽五行説の金・火・土・木・水がコンセプトの独創的な5棟がある。全て本格キッチンを備えて居住性が高く、サウナ付きや犬連れ専用の棟もあり滞在に合わせて選べたい。一步外に出れば、町の暮らしが。

香川県仲多度郡琴平町279-3



カルチャーのある宿泊。

琴平には「もっと地元文化を知って欲しい」という思いのあふれる宿泊施設がある。
 夜を越えれば、もっと町が好きになる。



虎屋別館

古き良き時代に包まれる

創業約400年の「虎屋旅館」の特別邸として江戸末期に建てられた建物が、昨年、半世紀ぶりにリニューアルオープンした。2間続きの「菊の間」は、昭和天皇も宿泊したとりわけ贅沢な空間。ふすまは金箔張り、武士や忍者が忍ぶための「武者隠し」には鳳凰のレリーフもある。古き良き日本文化に包まれて眠る夜を。

香川県仲多度郡琴平町963



UDON na HOTEL 琴平

琴平らしさを丸ごと

「さぬきライフスタイルホテル」として昨年10月にオープン。ロビーに金刀比羅宮の境内に陣取る飴屋、五人百姓を思わせる野だて傘、カフェに地元出身の和田邦坊の絵画と地元賛美があふれ、一日を締めくくる「宵うどん」のお接待もある。どの客室も広々しており、うどん尽くしのコンセプトルームも。

香川県仲多度郡琴平町字川西796-1



「おさかな工房まるせん」は、明治期に魚屋から始まり1952年に創業した、高松市中央卸売市場内の仲卸業者「丸千」の加工部門。専務の石原享祐さんが先導し、鯛の浜焼きを作るために立ち上げた。

この製法は姿を消した。しかし大正期、浜焼きの消滅を憂いた人物が新製法を編み出し、それが現在まで伝わっている。昭和期には人気の名物となり、引き出物や贈答品として珍重された。現在、丁寧な手作業が欠かせない浜焼きを作る会社は少ない。高松市中央卸売市場の近くにある「おさかな工房まるせん」は、「歴史のある珍しい郷土の名物を、どうしても未来に残したい」と、2016年から製造を始めた。保存性を重視した強い塩味を和らげるなどのアップデートは行いつつ、大正期に確立された製法を守り、生き締めした瀬戸内海産の天然鯛と瀬戸内海産の塩にこだわって、歴史をつないでいる。

温暖な気候や瀬戸内海の恵みが作り上げた、香川の豊かな食文化。その美味にはまだまだ、あなたの知らない奥がある。



腹にそっと生卵を仕込む。卵を割らないように菰を巻く力加減も難しい。



鯛の味わいを存分に引き出すため、蒸す時間や温度を日々調整。

鯛の浜焼きはその来歴も興味深い。海が遠浅で、晴れの日が多い香川県では、江戸時代から入浜式塩田での製塩が盛んだった。塩田で集めた濃度の高い塩水に熱を加えて煮詰め、できた塩を貯蔵する際、出来立てアツアツの塩にカヤの葉で包んだ鯛を入れて蒸したのが浜焼きの祖とされる。明治末期に塩の専売が始まり製品管理が厳しくなると、仕上げとなる。

続いて、ある驚きが仕込まれる。内臓を取った腹に生の鶏卵を殻ごと詰めるのだ。その理由には諸説あるようだが、腹が太って形が整い、ごちそう感も面白さも増すのは間違いない。菰で鯛を巻く作業は工芸を感じさせる。鯛に菰を被せたら、頭、エラ、腹、尾の付け根をわら縄で留め、持ち手もつける。尾は、わらを6等分して編んでからV字にカット。最も手間をかける部分だ。全体にはふくよかな丸みがありながら、頭や尾はきりりとシャープ。正月のしめ飾りを思わせる優美さではないか。



菰で巻いた鯛。見る者をおめでたい気持ちにさせる。

美しき珍名物、 鯛の浜焼き。

おいしい食べ物は各地にあれど、自ら麺を湯がくなど初心者には難しい独特のうどん店マナー、白みそ仕立ての汁にあんもちの入った「あんもち雑煮」など、県外の人にとっては不思議な食文化があるのが香川の懐の深さ。抜群のおいしさで、見目麗しく、風土に根ざして、ビックリもある。「鯛の浜焼き」は、四拍子そろった秘蔵の逸品だ。

※文中の鯛の浜焼きの製法は、「おさかな工房まるせん」のものです。

冬はお歳暮、春には就職や進学祝いの贈り物として注文があるという。お食い初めや、喜寿・米寿のお祝いにも。鯛の腹で蒸された卵は、弾力ある食感で鯛の風味がほんのり。卵だけ買いたいという人もいるクセになる味。



聞こえなくても
熱い応援がわたしのチカラ。

知事 2025年のデフリンピック、耳が聞こえない・聞こえにくいアスリートのための国際総合スポーツ大会において、デフバドミントンの代表選手として団体戦で史上初となる金メダルを獲得した片山結愛選手。まずは金メダルおめでとうございます。

片山 ありがとうございます。今回のデフリンピックは、初の日本開催、さらに100周年ということで、皆さんに注目していただきました。東京オリンピックと同じ京王アリーナTOKYOのコートに立てたこと。そして、大勢の観客に囲まれてプレーすることができたことは、一生の思い出になりました。選考会の中から、試合会場やパブリックビューイングなど、さまざまな形で応援してくだ

しさを克服していく楽しさがあります。例えば音で判断できないので、ショットの高さを変えて、前衛がシャトルを見て次の動きをする時間が作れるよう工夫します。最初は自分の得意なドリブンクリア*を生かせないと悩みましたが、それよりも確かなラリーで1点を取ること、仲間と連携することが大切なのです。そのために、高校時代まで使った手話も学びました。

知事 では話題を変えて、香川県の好きな食べ物や場所を教えてください。

片山 やっぱ好きな食べ物うどん。特に釜玉うどんが好きですね。車の免許を取ったので、西は父母ヶ浜や「天空の鳥居」で知られる高屋神社、東は

リフレッシュするつもりで

香川に帰ってきてください。



さったことが力となり頑張ることができました。子どもたちもボードや国旗を振って懸命に応援してくれました。「応援の力つてすごい」と感じさせてくれたデフリンピックでした。

知事 そのデフリンピックの舞台に導いた、片山さんのバドミントン人生について教えてください。

片山 バドミントンを始めたのは小学3年生の時でした。2歳下の弟と友人と一緒に地元綾川町のスポーツ少年団に参加したのがきっかけです。元々スポーツが好きでもありましたが、人工内耳と補聴器を着用しているのが、それに当たっても危なくないというのが、大きな理由でした。できなかったことがどんどんできるようになるのが楽しくて、大学まで続けて12年になります。バドミントンは対人競技で相手との駆け引きが面白く、相手の思い通りにさせず、自分のやりたいプレーを貫く醍醐味があります。1日に何試合も行いう競技なので、いかに体力を温存して勝ち上がるかが重要です。体力づくり

KATAYAMA YUME × IKEDA TOYOHIRO
知事対談 片山 結愛 × 池田 豊人

やさしい風景と 温かい人に包まれる香川県。



綾川町出身。生まれつきの難聴で、右耳に人工内耳、左耳に補聴器を着けて生活している。小学校3年生からバドミントン、高校3年生の時に本格的にデフバドミントンを始めた。初出場となった「2022日本ろう者ランキングサーキット大会」で女子シングルス優勝、女子ダブルス準優勝を果たし、東京2025デフリンピックのバドミントン混合団体戦では金メダルを獲得。

※自陣コートから相手コートのエンドライン付近に向けて、低い弾道で相手コートの奥を狙うショット。

屋島にと、香川県のあちこちを訪ねています。何より私は田んぼの中で育ったので、帰ってくると田んぼやため池の風景に癒やされます。穏やかな香川の風景を見ると気持ちが落ち着きます。それに人が温かい。高松の商店街では、待ち合わせをしても知っている人によく出会うのですが、皆さん温かく声を掛けてくれます。そういうぬくもりをいつも感じています。

知事 偶然に知り合いに会うというのは、コンパクトな香川県ならではの魅力ですね。では、最後に次の目標を教えてください。

片山 今回のデフリンピックでは多くの注目をいただきました。これを2029年のアテネ大会まで継続したいと願っています。そのために、私たち選手自身がイベントや講演会などの活動を通じて、もっとデフリンピックの認知度を上げていかなければと思います。個人的な目標としては、アテネ大会で団体戦と共に個人戦でも金メダルを取ることです。また、

のために、2023年の世界選手権出場からウェイトトレーニングを取り入れるようになりました。最初は筋力をつけることを意識していましたが、今は体の使い方、可動域を広げることを意識しています。腹圧を鍛えて体の軸をしっかりさせ、確実に止まって素早く動き、ミスの少ないプレーを目指しています。

知事 デフバドミントンならではの難しさや楽しさもあると思いますが。

片山 私は3歳の時に右耳に電極を埋め込み電気信号を送る手術をしています。左耳は補聴器を装着し、高校生まではその状態でプレーをしていました。しかし、デフバドミントンでは、全員が補聴器や人工内耳を外してプレーしなければなりません。私の場合は、飛行機のエンジン音や電車の音も聞こえない状態になります。最初はバランスも取りにくく、ダブルスでは声を掛け合えないのでラケットがぶつかってしまふこともありましたが、今までは違う難

片山 結愛

東京2025デフリンピック
バドミントン混合団体
金メダリスト



池田 豊人

香川県知事

自分と同じように耳が聞こえない子どもたちやそのご家族、生きづらさを抱えている人々に自分の活動を見てもらって、何かのきっかけになればという思いがあります。両親をはじめ、たくさんの人に支えもらった恩返しをしたいと考えています。今年から社会人になります。感謝の気持ちを忘れず、自分らしくバドミントンに向き合って結果を残したいと思っています。

知事 期待していますよ。練習が大変だとは思いますがリフレッシュするつもりで、時々香川県に帰ってきてください。

テキスタイル × 小西弘恵

見慣れた香川県の風景やモチーフをデザインする「SANUKI Textile (讃岐テキスタイル)」。この新たな視点をもって、香川県観音寺市の商店街に工房兼店舗「Pod」を開いた小西さん。洗練されたデザインが生まれる背景を伺った。

会話が生まれる
デザイン。



オリジナルデザインの「SANUKI Textile」から手作りで生まれる「grasspool」の製品たち。

を感じました」と迷いなく答えました。身近なものをモチーフにすることで、この地で共に住んでいる人に「この風景はこんなふうに見えるんだ」「気付かなかったけれど、いいところに住んでいるんだ」と、再発見してもらえるようなデザインを目指しているという。また、説明されて「ああ、なるほどね」と気付く程度の抽象度にこだわり、「ここに島のシルエットが隠れている」などと、会話が生まれるようなコミュニケーションツールになればと語る。



身近な風景が独自の視点で新しい魅力になる「SANUKI Textile」



観音寺商店街に色を添えるフラッグ。春風にはためきながら、お客さまを迎える。

自分以外の作品も置くセレクトショップにしたり、イベントを企画したりと、多くの人と関わる場所として商店街に店を構え続けたいと願う。すでに、この商店街のなくてはならない人になっていく小西さんがデザインしたフラッグが、光を浴びて街を彩っていた。



京都時代に生まれた山型のペンケースは山に囲まれた風景にインスピレーションを受けた。



grasspool
小西 弘恵
1985年 香川県観音寺市生まれ。
2008年 京都嵯峨芸術大学デザイン学科 卒業。
2008年 徳島の椅子工房勤務、ミシン縫製を担当。
2011年 活動の拠点を京都に移動、「grasspool」始動。
2024年 香川県観音寺市に工房兼店舗「Pod」を開設。



製品は全て小西さん自身が手作業で仕上げる。一点一点異なる柄の出方が個性になる。



香川県の西端、観音寺市の商店街にある「Pod」。ガラス張りの明るい店舗は、小西さん自作の家具などが置かれたセンスの良い空間に整えられている。

grasspool STUDIO SHOP Pod.
香川県観音寺市観音寺町甲1160-8 四国人形ビル1F
TEL 090-4785-5019
https://www.instagram.com/grasspool_pod/

※ テキスタイルは、「布」「織物」「生地」「繊維」などを指す言葉。アパレルやインテリアで使われる生地全般を指すことが多い。

香川・愛媛
せとうち旬彩館 東京・新橋 アンテナショップ

1F特産品ショップ、2F郷土料理レストラン、
観光情報コーナーで香川の旬をぜひどうぞ。

1F・2F おかげさまで開館23周年

旬彩館は平成15年3月25日の開館以来、多くの方々にご来館いただき、昨年10月には、来館者1,000万人を達成することができました。今後とも、首都圏における香川の情報発信拠点として、皆さまにご愛顧いただけるよう取り組んでまいります。



その一環として、今年3月25日(水)には開館23周年を迎えることから、感謝の意を込めて記念キャンペーンを実施します。キャンペーン期間中、一定金額以上の商品をお買い上げ、またはご飲食をされた方が使える割引クーポンを公式LINEで抽選により配布します。ぜひ、割引クーポンを使って、お買い物などをしていただき、香川の旬をお楽しみください!

※記念キャンペーンの詳細については、公式LINEの配信メッセージでお知らせします。

1F 県産オリーブオイルフェアを開催

3月27日(金)から29日(日)までの3日間、1階ショップ内において、県産オリーブオイルフェアを開催します。

期間中は、香川県内で栽培されているオリーブの木から収穫された果実のみを原料として、プレミアム基準に適合し、県の認定を受けたエキストラバージンオリーブオイルの試飲販売も行いますので、ぜひこの機会に、香川の誇る高品質なオリーブオイルをご賞味ください。



〒105-0004 東京都港区新橋2-19-10新橋マリンビル1・2階
https://www.setouchi-shunsaikan.com
香川県・愛媛県共同アンテナショップ運営協議会 TEL03-3574-2028

さぬき野 春 No.92 令和8年3月15日発行
企画・発行：香川県広聴広報課
編集・制作：(株)中国四国博覧堂

春の琴平は、どこか懐かしくてちょっと新しい。のんびり寄り道歩きを楽しみながら、あなたのとっておきを探してみてくださいはいかがでしょう。

編集長

光と桜が彩る「お庭の国宝」
特別名勝 栗林公園春のライトアップ



国の特別名勝に指定されている栗林公園では、春の夜を彩るライトアップを開催します。

園内約300本の桜が花明かりとなり、頭上を覆う桜のトンネルや湖面に映り込む幻想的な光景を楽しむことができます。

また、約千本の松や多彩な樹木も光と影の陰影により昼間とは異なる立体感のある力強い姿を鑑賞いただけます。

美しい庭園美と夜桜のライトアップが織りなす幻想的な空間で、心癒やされるひとときをお過ごしください。皆さまの卓越しを心よりお待ちしております。

開催日程:3月27日(金)~4月5日(日)
ライトアップ時間:午後6時~9時
(最終入園は午後8時30分まで)

※桜の開花状況によっては、開催時期が変更となる場合があります。
※最新の情報は、ホームページでご確認ください。

【問い合わせ】栗林公園観光事務所
TEL087-833-7411

公式サイト: https://www.my-kagawa.jp/ritsuringarden

行こう、戻ろう香川へ
移住・転職相談を受付中!

県外在住の皆さん、東京や大阪でも香川県への移住やUターン就職の相談を受け付けています。ご希望の相談方法(対面またはオンライン)をお選びいただけます(無料・要予約)。社会人の方から学生の方まで、まずはお気軽にお問い合わせください。



かがわ移住ポータルサイト
「かがわ暮(ぐ)らし」はこちら
https://www.kagawalife.jp/



公益社団法人 ふるさと回帰・移住交流推進機構
東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館8階
TEL080-2125-1634(午前10時~午後6時)
休日:月曜、火曜、祝日、年末年始など

香川県東京人材Uターンコーナー
東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館9階 香川県東京事務所内
TEL03-5212-9100
(平日午前8時30分~午後5時15分)
休日:土曜、日曜、祝日、年末年始

香川県大阪人材Uターンコーナー
大阪府大阪市中央区東心斎橋1-18-24
クロスシティ心斎橋4階 香川県大阪事務所内
TEL06-6281-1661
(平日午前8時30分~午後5時15分)
休日:土曜、日曜、祝日、年末年始

瀬戸内海の安全を守る美灯台
重要文化財「男木島灯台」

男木島の北端に1895(明治28)年に建設された男木島灯台は、130周年を迎えた現役の灯台施設です。灯台の他に、灯台を管理していた吏員(通称:灯台守)が暮らしていた旧吏員退息所や管理に必要な用具などが保管されていた旧第一物置など、建設時に整えられた施設が良好に保存されていたため、灯台と合わせて付属施設も重要文化財に指定されました。

男木島灯台は、現在では全国に3基しかない自然石の風合いを生かした無塗装灯台としても価値が高く、地元産の花こう岩の品質の高さを示すと共に美しい石の質感が周囲の景観に映え、全国屈指の美灯台としても知られています。外観の美しさばかりではなく、灯台内部にも同質の石の螺旋階段が設置されており、石材の産地にふさわしい技術力の高さで地元の石工が灯台建設を支えていたことを感じられます。



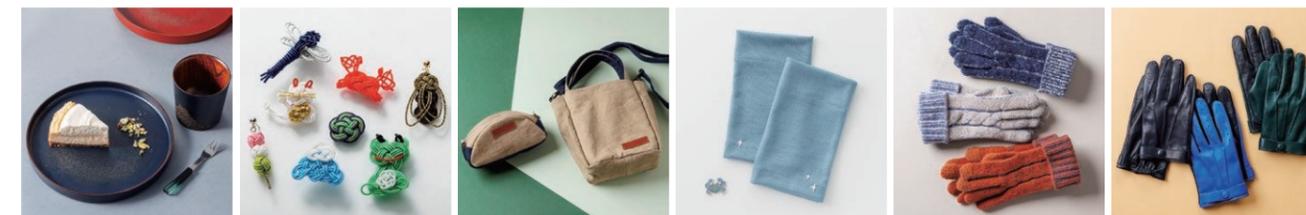
ぜひ一度、「日本の灯台50選」にも選ばれている男木島灯台へ足を運んでみてください。

【問い合わせ】香川県教育委員会生涯学習・文化財課
TEL087-832-3786

男木島の詳細はこちら



「香川のものづくり」の魅力を発信!
【藤巻百貨店×香川県】オンラインで販売イベントを開催



※画像提供:藤巻百貨店

漆器プレート
(さぬきうるしSinra)

水引ピンズ
(結納センターつちだ)

オリーブ帆布バッグ
(Cargo Ship)

リストウォーマー
(株式会社タナベ刺繍)

ニット手袋
(株式会社フクシン)

革手袋
(平田商店)

厳選した“日本の逸品”のみを扱う通販サイト「藤巻百貨店」で、香川県とのコラボ企画「挑戦する6つの風〜工芸と産業をめぐるツーリズム〜」を開催中です。

当企画では、藤巻百貨店の審美眼と知見を活かして「香川漆器」や「水引」などの香川の伝統工芸・地場産品から新たな商品を生み出しました。開発した商品はオンラインで購入可能です。

香川の歴史や文化、職人の技や革新的なものづくりの魅力を再発見できるラインナップになっています。この機会にぜひ特設サイトをご覧ください!

【特設サイト】
https://fujimaki-select.com/ext/kagawa/2025/index.html
【問い合わせ】香川県産品振興課 TEL087-832-3386



(注)掲載のイベントは、中止または内容に変更が生じることがあります。